Hijicho
大阪市立大学新聞

2016.6.4
第43号

Hijicho　大阪市立大学新聞

Pick Up　2,3,7面 ◇ 伝統続く　第125回ボート祭

ニュース・コラム

4-5面 ◇ 阪和線にNew Face
～変わる市大生の足～
5面 ◇ 新大学名アンケート
6面 ◇ BOX総会2016
7月4日(月)開催！！

読者投稿コーナー

8面 ◇ 市大川柳
8面 ◇ 市大フォト・マダム鳥子

Hijicho公式LINEアカウント
@hijicho

伝統続く 第125回ボート祭

第125回ボート祭が、5月21日（土）22日（日）の2日間にわたり開催された。毎年5月に桜ノ宮の大川で行われるこのボートレース大会は、市大生だけでなく一般市民も参加することができる。1889年から続いており、今年で125回目という大きな節目を迎えた。荒川学長による開会の挨拶では、本大会のルーツである「水上運動会」について触れ、その歴史の深さを語った。

レースは学部の部、文化系サークルの部、体育会系サークルの部、教職員の部、女子の部、市民の部の6つの部門に分かれている。また、特別レースとして学長レースと学部選抜レースも行われ、市大学長艇は惜しくも府大学長艇に敗れ2位だった。どのレースも熱戦を繰り広げ、大きな盛り上がりを見せた。

ボート祭実行委員長　高松哲平さん

写真＝高松さん（丹下舜平撮影）

――125回という大きな節目を迎えて、どのような気持ちで運営に携わりましたか？

気持ちを引き締めて、ルールの変更や広報等、新しいことに挑戦しました。今年は特に広報に力を入れ、ウェブサイトを新しくしたり、都島区の広報誌にボート祭について載せてもらったりしたんです。例年以上を目指し、自分たちの中でいろいろチェンジしていこうと取り組みました。

――運営するにあたって、苦労した点や良かった点は何ですか？

どうやったら皆さんが貴重な土日という時間を割いて、この大会に参加しくれるのか、とても悩みました。できる限り出る側の気持ちを考えて、タイムレースの方が分かりやすくて皆来てくれるんじゃないかとか、レースルールを変えたりと、たくさんの会議を重ねてきました。

良かった点は、実行委員会の仲の良さですね。ばらばらの所属の人たちが集まって運営に携わってきましたが、そういったことを感じさせないほど交友関係を深められたと思います。

――景品はどのように決められましたか？

決められた予算の中で、レースに参加したくなる景品選びを心がけました。また、値段の豪華さだけでなく、各部門でどういったものが喜ばれるのかということにも気を配りました。

――今後のボート祭はどうあってほしいですか？

あと2倍は続いてほしいですね。ボート祭は明治から続く伝統ある大会です。しんどいかもしれないけど、その中で絶えず勉強していけば、より良いものができると思います。

ボート部主将　松井亮介さん

――ボート祭、2日目を終えての感想はどうですか？

ボートに乗っている皆が楽しそうで、教えている側もとても楽しかったです。

――ボート祭をやって良かった点は何ですか？

これだけボートがクローズアップされることはめったにないので、皆さんにボートのことを知っていただける、いい機会だと思っています。参加してくださる方とコミュニケーションをとることができるので、今後の関係も生みだせるのが魅力の一つだと思います。

写真＝（左）松井さん（大塚撮影）
（右）新家さん（丹下撮影）

――このボート祭の期間で言われてうれしかったことはありますか？

はい。うれしかったのは「熱心ですね」という言葉です。ボートの漕ぎ方を教えている時の僕たちの態度を見て言ってくださったのですが、日頃から何事にも熱心に取り組む姿勢を認められたような気がして、普段の活動にもやりがいを感じました。僕たちのやってきたことは間違っていなかったのだと感じる瞬間でした。

――ボートの魅力を教えてください。

「究極のチームスポーツ」である点です。一人だけ調子がよくてもいい結果は出ません。しかし逆にいうと、個人では上手くいかなくても、チームの息が合えば一気に勝利に近づきます。皆の力がかみ合ってベストタイムが出たときは、本当にボートをやっていてよかったと思います。

――最後に来年のボート祭に向けた意気込みをお願いします。

今年は前回よりもレースに出場するチーム数が減ってしまったので、来年は事前の告知により力を入れて、もっとたくさんの方を巻き込みたいです。各学部から出場チームが集まれば、学部対抗レースもしたいですね。毎年優勝チームには魅力的な景品が用意されているので、得しかしないと思いますよ！　外は少し暑いですけど（笑）。ぜひ皆さんに参加していただきたいです。

ボート部副主務　新家佑さん

――ボート祭において、ボート部はどのような活動をされているのですか？

主にレースの運営です。各ボートに部員が1人ずつ乗り込み、舵取りを行います。

――当日までにどのように準備を行っているのですか？

準備は当日の2日前から始めます。当日は朝5時に起きてボート部全体で朝練習を行った後運営に向かう、というハードスケジュールのため、前日から泊まり込みで対応しています。

――どのような意気込みで運営に取り組んでおられますか？

まずは安全の確保です。ボート祭を125年もの間続けてこられたのも、やはり大きな事故が起こらなかったからこそだと思います。この歴史ある祭りがこれからも続いていくためにも、安全が第一だと心がけています。

――ボートの魅力とは何ですか？

大人数でできるところです。老若男女を問わず参加できるため、いろいろな人と関わり合える点が最大の魅力だと思います。この祭りが参加者の皆さんにとってボートという競技を十分に楽しめる、思い出に残る経験となってほしいと考えています。

青桃会

写真＝青桃会の皆さん（丹下撮影）

――今回の作品を披露するに当たって練習はどのくらいの期間行いましたか？

だいたい2週間くらいだと思います。

――練習をするにあたり、どのような箇所に気を付けて行いましたか？

自分たちの立ち位置や動くタイミングですね。音楽に合わせて演技を行うので、音楽にずれないように皆で合わせて、本番でミスが出ないように練習しました。

――演技用の音楽はどのように選びましたか？

今回の作品はカラフルな建物と川だったので、それに見合うようなカラフルで明るく、水に合う曲にしました。

写真＝ライブアートの様子（丹下撮影）

――今回の演技を終えて感想をお願いします。

本番で観客の皆さまが盛り上がってくたさりよかったです。来年は今年を超えるように頑張っていきたいと思います。　（**7面に続く**）

阪和線にNew Face
～変わる市大生の足～

市大生の多くが利用するJR阪和線に、この夏新しい車両が導入される。これまで同線には、快速用に新しい車両が入ることはあったが、今回は普通列車にも新しい車両が入るという。この記事では利用者が注意すべきことはあるのか、に重点をおいて阪和線の新しい車両について紹介する。

どんな車両が入るのか

写真＝この度阪和線に入る新しい車両
（執筆者友人提供）

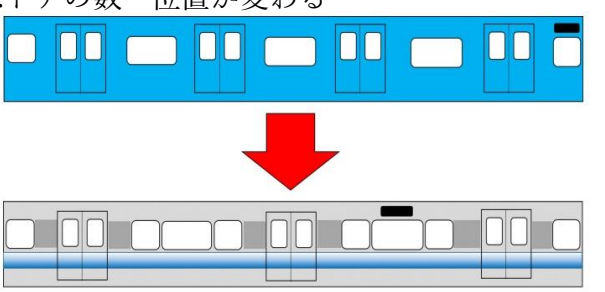
この度阪和線に入る新しい車両は、225系5000番代2次車、または225系5100番代と呼ばれている。この車両は、現在おもに快速用として走っている225系5000番代1次車のマイナーチェンジ版というべき車両で、基本的には同じ設計をしているものの、前面部のデザインが変化していたり、種別・行先表示器にフルカラーLEDが採用されていたり、安全対策の機器が増設されている。また外国人観光客の利用を想定して、JR西日本の通勤・近郊型車両としては初の公衆無線LANのサービスが提供される予定だ。

JR西日本はこの車両を阪和線に4両編成14本、6両編成11本の合計122両導入し、現在普通列車の主力となっている103系や205系を順次置き換えるという。またこの導入によって、普通列車と快速列車で使用される車両を統一することで、運用の効率化を図る計画だ。

写真＝（上）現在の阪和線普通列車の主力103系
（下）205系（どちらも北村撮影）

利用者が注意すべきこと

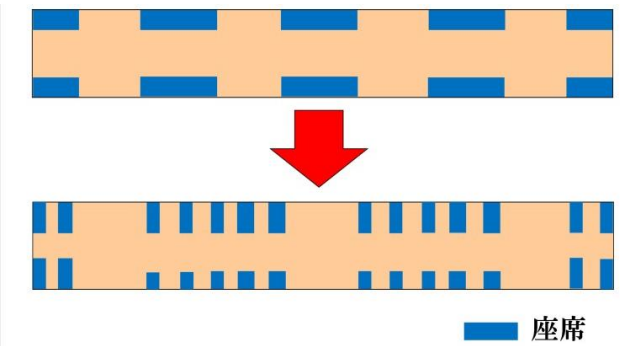
1.ドアの数・位置が変わる



これまでの普通列車はドアの数が4つであったが、新しい車両ではドアの数が3つに減る。

しばらくの間は4ドアの普通列車と3ドアの普通列車が混在するようになるので、駅での列車待ちの時に間違えてドアの無いところに立たないよう、案内表示や放送をよく確認するようにしよう。またドアの数が減ることで、混雑時に乗り降りにかかる時間が増えることが予想される。列車の定時運行のために、混雑時には乗り降りする人の通り道を確保するなどの気配りをするようにしよう。

2.座席の配置が変わる



これまでの普通列車は座席がロングシートであったが、新しい車両では快速と同じ１人＋２人掛けの転換クロスシートになる。一般的な転換クロスシートの車両に比べて通路は広めになっているとはいえ、これまでの普通列車よりは狭くなるので、混雑時により多くの人が乗車できるようにしっかり奥まで詰めるようにしよう。

3.快速も普通列車も同じ車両になる

快速と普通列車で同じ車両が使われるようになることで、気をつけたいのが誤乗車である。とくに快速も普通も止まる天王寺や堺市、三国ヶ丘などで、慌てて乗りこんだら快速で降りるはずの駅を通り過ぎてしまった、ということが無いよう、しっかり確認して乗るようにしよう。

以上、阪和線にやってくる新しい車両について紹介した。現時点では具体的な運行開始日は発表されていないが、すでに完成した車両は阪和線の車両基地に輸送され、阪和線での試運転が始まっており、また杉本町駅を始めとする阪和線内各駅には3ドアの乗車位置を示すシールが貼られるなど、着々と準備が進められている。利用者である市大生の皆さんは新しい車両の登場を心待ちにしつつ、いざ運行が始まった時に戸惑わないよう心づもりをしておくと良いだろう。

また、阪和線と同じく通学の足として多くの市大生が利用している大阪市営地下鉄御堂筋線にも、今秋から新しい車両が導入される予定だ。徐々に変化していく市大生の足の動向を、これからも追っていくつもりである。

関連記事

阪和線VS御堂筋線　仁義なき戦い
～速くて便利な最強路線はどちらか～
http://hijicho.com/?p=14447

文責

北村健太（Hijicho）

新大学名アンケート

大阪府と大阪市でつくる協議組織「副首都推進本部」は4月19日、本学と大阪府立大をそれぞれ設置している二つの大学法人を2019年までに統合し、22年4月をめどに新大学の開設を目指すことを確認しました。

Hijichoでは、皆さまが予想する新大学名をアンケートで募集します。ご応募いただいたアンケート結果は集計し、7月号にて発表いたします。皆さま奮ってご応募ください！

《募集要項》
予想する新大学名を専用応募フォーム（https://t.co/2NaBWbTzLr）よりご応募ください。どなたでもご応募いただけます。
応募例：大阪都市大学、なにわ大学、大阪粉もん大学など
《募集期間》
2016年5月23日から6月20日まで
※作品は、紙面やウェブサイトに掲載させていただくことがあります。

BOX総会2016　7月4日（月）開催！！

2016年7月4日（月）18時30分からBOX総会が行われます。概要は以下の通りです。

【名称】BOX総会2016
【日時】2016年7月4日（月）
18時30分～19時30分（予定）
【場所】810教室
【主催】BOX協議プロジェクト執行部
【参加者】BOXを所有する団体の代表者及び新規BOXを希望する団体の代表者
【万が一出席できない場合】BOX所有団体で代表者が出席できない場合、必ず代理を立ててください。やむを得ず代理を立てられない場合、事前に委任状を提出していただくことで出席と替えることができます。
件名に「BOX総会委任状」と、本文に①団体名②責任者名③委任の連絡　を記載し、ocu.boxap@gmail.com までメールにて提出してください。期限は7月4日（月）18時30分です。
現在BOXを使用している団体はBOX協議プロジェクトの構成団体となっています。BOX総会はBOX協議プロジェクトの一環です。

BOX協議プロジェクト業務規約よりBOX協議プロジェクトの役割について確認してみましょう。

第一条　名称
②BOX協議プロジェクト（以下、プロジェクト）は、BOXを所有するサークルの代表者と執行部によって形成される。第二条役割 意見・要望を協議し、大学側に働きかけることによってBOXに関する学生の要求を実現する。また、BOXを使用している団体と大学側との連絡調整を行う。

次に総会についても同規約から抜粋しました。

第五条　総会
①プロジェクト内の利害調整の最高意思決定機関は総会とする。
②総会はプロジェクト加盟サークルの過半数の出席によって成立する。ただし出席不可の場合は委任状の提出をもって出席と替えることができる。
③プロジェクト加盟サークルは、総会に出席し、方針を検討することができる。欠席の場合は総会の決定とそれに基づく執行部の活動を承認しなければならない。
④総会は、執行部の原案に基づき開催される。ただしプロジェクト加盟サークルの四分の一以上の要請があれば、開催しなければならない。
第六条　総会の議決
①総会の議決は、各サークル代表者一票で行うものとする。
②総会の議決は、規約改正を除き、総会における出席者の半数の賛成に基づき承認をもって成立されるものとする。

総会の議決権はBOXを所有している団体の代表者各1名につき1票であるということです。また総会はBOX協議プロジェクトの最高意思決定機関です。BOX所有団体は総会への出席義務があります。

BOX総会2016 BOX総会2016の内容は以下を予定しています。

◆執行部人事承認
◆BOX協議プロジェクト概要説明
◆BOXヒアリング報告
◆特別議題
◆BOX退去&新入居に関する説明
◆BOX新入居団体候補に関して
◆決議
◆Hijichoおよび四者協からの連絡

なお、今年度は空きBOXがないため新規BOX申請は受け付けておりません。
BOX協議プロジェクトの目的はBOXに関する意見や要望を大学側へ届けることです。より快適に課外活動を行い、市大をますます活気ある空間にするために、当事者意識を持って参加しましょう。

文責
BOX協議プロジェクト執行部

（2面より）

写真＝ライブアートの様子（丹下撮影）

応援団　新入団員

写真＝応援団新入団員の皆さん（丹下撮影）

――今回が初めてのステージとのことですが、どういった気持ちで演舞をしましたか？

とても緊張しましたが、たとえミスをしてしまっても全力で皆さんを鼓舞しようと臨みました。ボートに乗る人たちの力になれていたら幸いです。

――練習などで大変だったことはありましたか？

リーダー部　練習が始まったのが2週間前だったので、時間を無駄にせず振りを覚える作業が大変でした。

バトン部　練習のたびに新しい曲が増えていくので、復習する時間を作るのに苦労しました。

吹奏部　吹奏部は全員初心者だったので、音を出すところからのスタートでした。先輩に教えてもらいながら必死に曲を覚えました。

――今後の目標、決意を教えてください

リーダー部　応援団は常に進化していく団体です。僕らの代で過去最高の応援団をつくり上げ、市大の皆さんをさらに鼓舞していきます！

バトン部　次の舞台は府大戦です。楽しい曲をたくさん覚えて元気を与える応援をします！

吹奏部　今は音を出すのでいっぱいいっぱいですが、僕たち1回生から吹奏部を牽引できるように成長したいです！

女子の部優勝　部室爆発号

写真＝部室爆発号の皆さん（大塚撮影）

――優勝した感想は？

「あ、優勝してしまった」という感じです。優勝できるとは思っていなかったので（笑）。

――どういった集まりですか？

女子ラクロス部の2回生と3回生で組んだチームです。

――船の名前の由来は？

今年は女子ラクロス部にたくさんの新入生が入ってくれました。それで、今は部員のかばんだけで部室がいっぱいになってしまう状態なんです。なので、部室を増やしてほしいという気持ちを込めました（笑）。

――優勝の決め手は何だったと思いますか？

チームワーク力だと思います。普段から一緒に活動しているので。

――来年もボート祭に参加されますか？

今回初めてボート祭に参加したのですが、とても楽しかったです。来年も試合が被らなければ、参加したいと思います。次出るならちゃんと練習をして、もっとレベルを上げたいですね。今回は女子ラクロス部からは1チームだけの参加だったので、できれば2～3チームぐらい出したいです。

今年のボート祭も無事何事もなく2日間を終えた。本大会は学部や学年を越えて楽しむことのできる貴重なイベントである。この伝統が今後どのように続いていくのか、楽しみだ。

文責
大塚成美、中村伸二、藤本理沙、村島健太、行田美希（Hijicho）

市大川柳

大阪市立大学新聞 Hijicho では、市大生の声や想いを大学内で共有すべく、市大や市大生の生活に関する川柳を募集しています。毎月テーマを設け、それに沿って優秀賞などの選考を行い、**翌月の紙面（ウェブ版なども含む）にて発表**いたします。
6月号では、テーマ「雨」に合わせ多くの作品をご応募いただきました。
ありがとうございました。

金賞

空いてます 相合傘の 左側

PN サウスポー

選考委員のコメント
早くお相手が見つかるといいですね。
投稿者さんの有望な前途をお祈りしています。

銀賞

hijichoさん いつから梅雨入り 教えてよ

PN さくらぎ壱伍

選考委員のコメント
6月1日現在、まだ予報できません。
遅く梅雨入りし、早く梅雨明けすることを祈りましょう。

サボりで賞

自主休講 判断理由は 雨のせい

PN 川の流れのように流線形

選考委員のコメント
雨の日は外に出たくなくなりますよね。
雨のせいで単位を落とさないように、頑張りましょう！

作品応募はこちらから

7月号のテーマは『**夏休み**』です。みなさまのご応募お待ちしております。

【選考基準】
・テーマに沿っていること
・市大、もしくは大学生の生活に関する内容であること
・五七五を目指していること
この3つの基準をもとにHijichoの選考委員が選考いたします。

【募集締切】 7月号分（テーマ『夏休み』） 2016年6月20日まで

【募集要項】 右上のQRコードより専用応募フォームにアクセスの上、ご応募いただくか、hijicho@gmail.com まで件名に市大川柳、本文に所属、氏名(ペンネーム可)を明記の上お送りください。
※作品は紙面やWebに掲載されることがあります。テーマ以外の作品でも構いません。

市大フォト

【7月号締切】2016年6月20日
大学や大学付近で撮影した写真を募集しています。

マダム鳥子の ピーチクパーチク うるさいわね！

マダム鳥子 (ちょうこ) が読者のお悩みに風切り羽でスパッとお答えします。